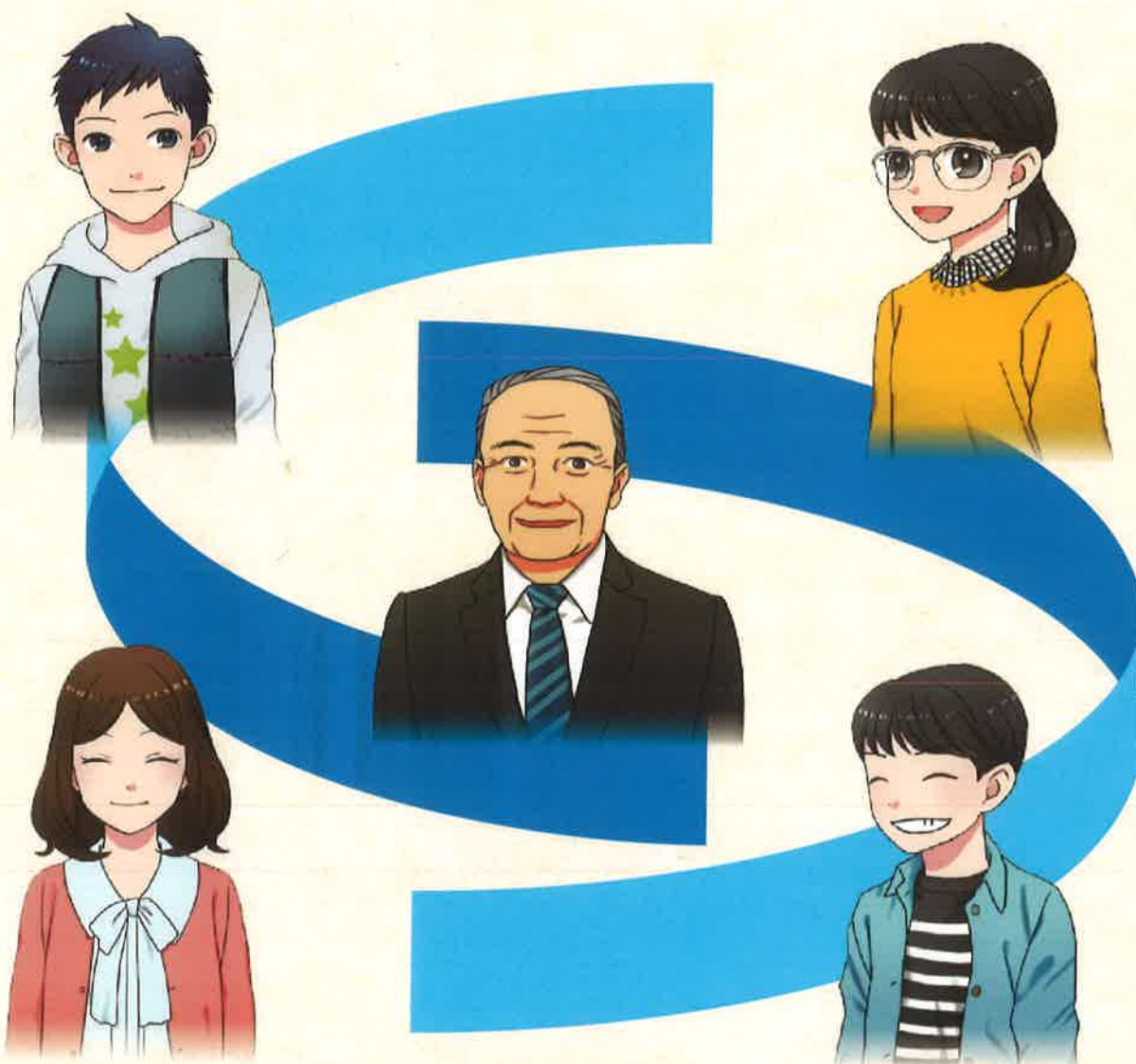


# あわ文化テキストブック



徳島県教育委員会

## 中学生の皆さんへ

私たちが住む徳島県てどんな所でしょうか。そこに生きる人々はどのような暮らしを営み、どのような伝統や文化をはぐくんできたのでしょうか。

徳島県は大きく分けて、北は鳴門市から南は海部郡まで長く伸びる沿岸部、吉野川や那賀川などの流域一帯に広がる平野部、そして剣山を中心とする四国山地一帯にまたがる山間部など多様な地域から成り立っています。それぞれの地域には、その土地の風土に根づいた人々の暮らしや歴史があり、そこで<sup>つちか</sup>培われたさまざまな伝統や文化が息づいています。

ところで、「灯台もと暗し」という<sup>ことわざ</sup>諺がありますが、この諺のように案外、自分たちの住んでいる地域の歴史や文化について知らないこと、分からないことが数多く残されているようです。

本書をとおして、そうしたふるさと徳島の風土や歴史、文化を学び、親しむことによって、私たちはわくわくするような徳島の持つ魅力を発見するかもしれません。反対に、「ウーム」と思わず腕組みをしてしまうような地域のむずかしい課題に突き当たることがあるかもしれない。大いに想像力を働かせて、ふるさとについて考えてみましょう。

徳島に関する学習を深めていく中で、ふるさとを愛し、誇りに思う心も自然とはぐくまれていくのだと思います。また、私たちの先人が大切に伝えてきた地域の伝統や文化を受け継ぎ、新しい担い手としてふるさとづくりを進めていこうとする知恵や勇気も生まれてくるのだと思います。

ふるさと徳島の歴史や伝統、文化について理解を深め、大切にしていこうとする態度を身につけることを土台として、国内はもちろん、異なる歴史や文化を持つ国や民族に対しても敬意を払い、平和な社会をめざして努力する、豊かな心を持った人間が徳島の地から羽ばたいていくことを願っています。

「あわ文化テキストブック」編集委員会

# 目次

## 阿波の歩み

- 【1】 銅鐸と朱に込められた思い ..... 1
- 【2】 木簡から見える古代の阿波 ..... 3
- 【3】 阿波の古代寺院を探ろう ..... 5
- 【4】 阿波から都へ～三好氏の時代～ ..... 7
- 【5】 なぜ徳島に城下町ができたのか ..... 9
- 【6】 小学校のはじまり～学制と徳島の教育～ ..... 11

## 地域に息づく伝統文化

- 【7】 阿波おどりの歴史と魅力について語ろう ..... 13
- 【8】 阿波に根付いた人形浄瑠璃 ..... 15
- 【9】 「板東俘虜収容所」で結ばれた、日本とドイツとの交流 ..... 17
- 【10】 アジア初演「歓喜の歌」 ..... 19
- 【11】 人々の衣服を染めた阿波の藍 ..... 21
- 【12】 四国遍路とお接待 ..... 23

## 自然の恵みが生み出す地域の文化

- 【13】 橋でつながる人・もの・地域 ..... 25
- 【14】 徳島の郷土料理を知ろう ..... 27
- 【15】 地域の食材を使って「そば米汁」を作ろう ..... 29
- 【16】 徳島県の天然記念物を見に行こう ..... 31
- 【17】 奇勝「阿波の土柱」 ..... 33

## 阿波の伝統文化を発信しよう

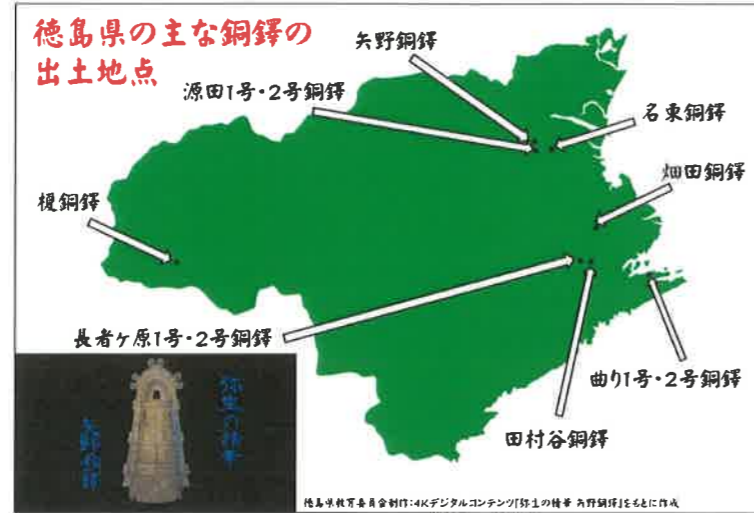
- 【18】 陶器(セラミックス)で豊かな生活 ..... 35
- 【19】 徳島の名所や史跡・特産物等を紹介しよう ..... 37
- 【20】 暮らしのなかに息づく伝統・文化 ..... 39

## 【1】銅鐸と朱に込められた思い

徳島県で出土する「銅鐸」や「朱」を手がかりにして、弥生時代の人々はどのようなことを考えていたのか、資料から想像してみよう。



矢野銅鐸 (徳島市国府)



銅鐸出土地点(4Kデジタルコンテンツ「弥生の精華 矢野銅鐸」より作成)



安都真3号 (徳島市入田) の復元

### 徳島県の銅鐸出土数は全国有数

銅鐸は日本特有の発展をとげた青銅器です。その起源は中国大陸の人々が腰に付けていた銅鈴が、弥生時代に日本(倭国)へ伝わり、大型化したものとする説があります。銅鐸は釣り鐘の形をしています。大きさは10cm程度のものから1mを超えるものまで様々です。これまでにおよそ500点見つかっています。徳島県では42点確認されており、全国有数の出土数です。

### 銅鐸に込められた弥生人の思い

弥生人はなぜ銅鐸をつくったのでしょうか。そのヒントが香川県から出土したとされる銅鐸にありました。この銅鐸には当時の稲作の様子と、水田やその周りに住む亀やトンボ、鹿などさまざまな虫・動物が描かれていたのです。弥生時代は本格的な農耕が開始された時代です。銅鐸は豊作を祈る祭や、収穫を祝う祭りに欠かせない道具だったのです。

### 神聖な色 - 朱 -

中国の歴史書である三国志の『魏志』の倭人伝に「其山有丹(そのやまにたんあり)」と書かれていることから、弥生時代に朱の生産が行われていたと考えられています。鮮やかな赤色を発する朱は神聖な色でした。弥生時代の墓では、棺や遺体の周りに水で溶いた朱を塗っています。邪悪なものから死者を守る魔除けの効果を



色にはどんな意味があるのかな。



鳴門市西山谷2号墳石室(濃い部分が朱の範囲)



辰砂原石(若杉山遺跡の周辺で採集)



朱をつくる様子



埋められた銅鐸(名東遺跡)



辰砂採掘道具(若杉山遺跡)

期待したのでしょうか。この思想は古墳時代に引き継がれます。鳴門市の西山谷2号墳では竪穴式石室の内部から朱が見つかりました。近畿地方の古墳の竪穴式石室からも朱は見つかっています。

### 日本最古の辰砂採掘遺跡 - 若杉山遺跡 -

朱のひとつである水銀朱は、辰砂と呼ばれる鉱物から作られます。阿南市水井町の若杉山遺跡は辰砂を採掘していた遺跡です。弥生人は岩盤の中に含まれる辰砂の鉱脈を目指して掘り進んでいきました。発掘調査では岩盤を砕いて辰砂を取り出すための石杵や石臼などの採掘道具が出土しています。若杉山遺跡は日本で最も古い辰砂採掘遺跡です。

徳島県立埋蔵文化財総合センター(レキシルとくしま)では、辰砂から水銀朱をつくる弥生人の様子をジオラマで紹介しているよ。



### 変化する弥生時代の思想 - 古墳時代への歩み -

稲作を本格的に開始した弥生人にとって、農耕にかかわる祭りは豊作を祈り、感謝する大切な行事でした。銅鐸は祭りに欠かせない道具であり、ムラ人が共同で所有する宝でした。ところが弥生時代の後半になるとしだいに銅鐸は使用されなくなり、やがて地中に埋められたと考えられています。

銅鐸を用いた祭りがしだいに行われなくなる一方、弥生時代の終わり頃から有力者の墓には貴重な朱が使われはじめ、古墳時代にはそれが広がっていきます。朱に染まった棺に葬られることは、権威の象徴でもあったのです。

## [2] 木簡から見える古代の阿波

阿波国府周辺から出土した品々を手がかりにして、奈良・平安時代の役人はどのような生活を送っていたのか、資料から読み取り、知識を深めよう。



古代阿波国府があったところ  
(徳島市国府町)



阿波国分寺跡(徳島市国府町)



阿波国分尼寺跡(名西郡石井町)



古代の政治はどのように行われ、役人の生活はどのようなものだったのかな。

### 阿波国府

奈良・平安時代の阿波国の政治の中心地は、国府という地名や、国府の近くに国分寺や国分尼寺などが建立されたことなどから徳島市国府町周辺であると以前から考えられていました。

### 律令制度のもとでの地方政治

大化改新(645年)後の白村江の戦い(663年)以降、倭(中央政府)は中国(唐)の律令制、都城制等を急速に導入しました。これにより、地方政治は、中央政府から派遣された国司が行うようになり、その中心となる地域を国府と言いました。国府には政務・儀礼を行う国庁と、各種の実務を行う所や倉庫、工房などが設けられており、中央政府から来た人も、地元阿波国出身の人もいたと考えられます。



観音寺遺跡

### 観音寺・敷地遺跡

観音寺・敷地遺跡は徳島市国府町にあり、1996(平成8)年以降、道路建設に伴って継続的に発掘調査が行われました。6世紀末から11世紀にわたる大量の遺物が、南北方向と東西方向の2つの河川跡から出土しました。

### 観音寺・敷地遺跡出土品

出土品は、文書行政に必要な木簡や齋串・人形(祭祀の道具)・農具・工具・紡織具などの木製品、墨書・刻書された土器、硯、銅印、巡方(腰帯具)、鏡や瓦等多種多様にわたります。

これらの出土品には、古代地方官庁を運営する上で必要なものがほとんどそろっており、国府の成り立ちや終わり、政治や役人



観音寺・敷地遺跡出土品



人形



つぼに入った齋串



銅印(「生」の刻印)



刻書土器「井上」



巡方ほか腰帯具



墨書土器「佛殿」

これらの出土品から、古代の政治や役人の生活の様子を知ることができますね。



の生活などを知るために重要であることが分かりました。その学術的価値が高いと認められたことから、2015(平成27)年9月4日に922点が「徳島県観音寺・敷地遺跡出土品」として、重要文化財(考古資料)に指定されました。

### 観音寺・敷地木簡

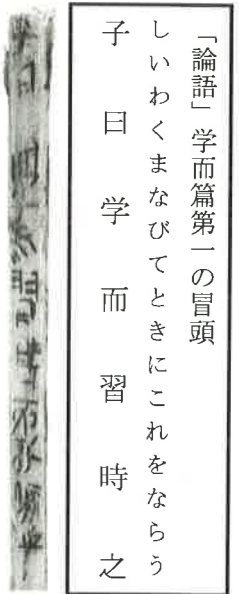
律令制度導入により、地方の役所では戸籍・計帳をはじめとした、公の記録を作成する必要があったので、文字・漢字が使用されました。削ることにより何度も使うことができる、物品に荷札としてつけることから木簡が利用され、観音寺・敷地遺跡では200点を越える多数の木簡が出土しました。

その当時の漢字使用の状況を知ることができるものとして、「論語」の一節に依っている「論語木簡」が出土しています。7世紀中頃の作成と考えられ、「論語」の記述としては日本最古級です。「難波津の歌木簡」は万葉仮名で和歌の手本を写したものです。

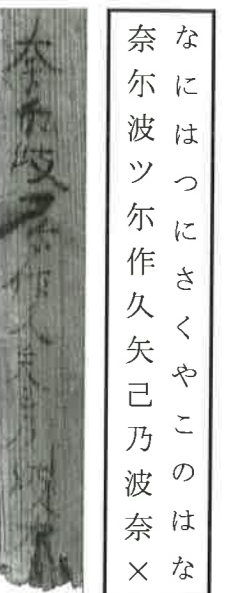
戸籍・税制度を知ることができるものとして、「勘籍木簡」や、「棘甲嬴」などの海産物をはじめとした特産物名が記された木簡が出土しています。「勘籍木簡」は、戸籍を確認し本人かどうかを確かめたことが記されたものです。また、阿波国の地名や行政の仕組みを知ることができる「麻殖評木簡」なども出土しています。

### これからの調査・研究によって見えてくるもの

観音寺・敷地遺跡出土品から、これまで知ることのできなかつた古代の阿波国の様子や、行政の仕組み、役人の生活が少しずつ見えてきました。しかし、位置の確定など、国府全体の解明には至っていません。今後の周辺の調査・研究等によって明らかになってくるものがまだ多くあります。



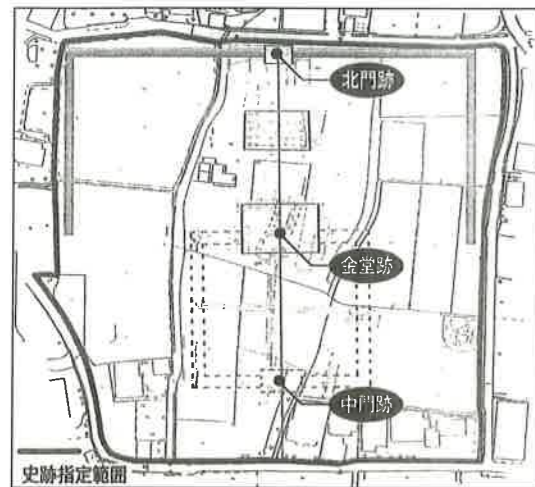
論語木簡



難波津の歌木簡

### [3] 阿波の古代寺院を探ろう

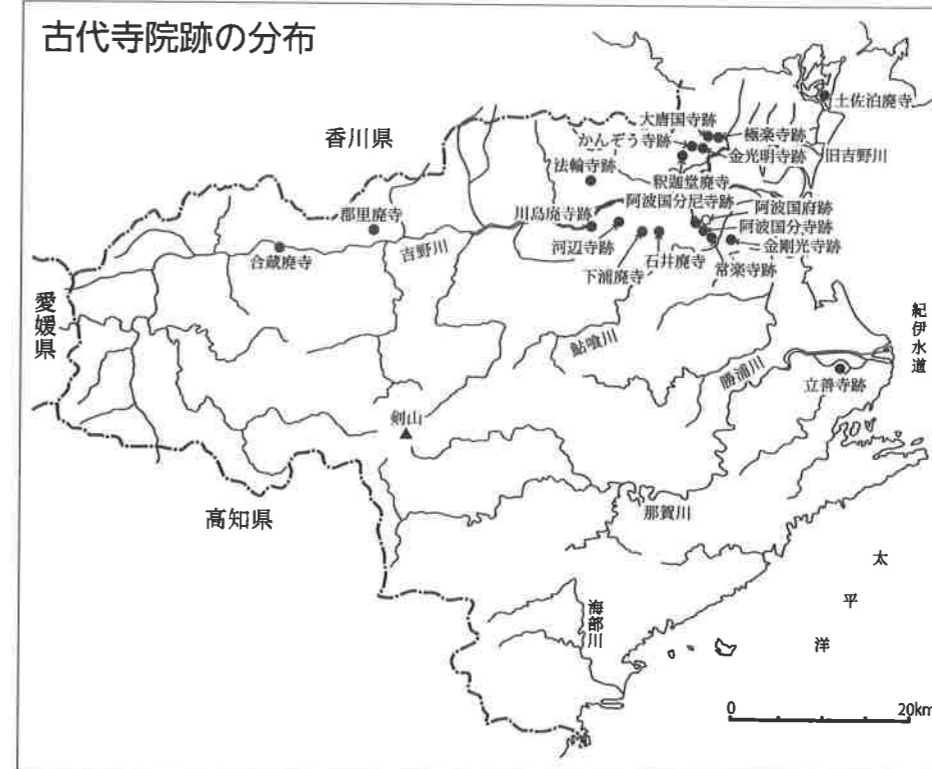
県内各地の古代寺院跡から、古代において仏教はどのように広がっていったと考えられるか、説明しよう。



阿波国分尼寺跡の復元図



阿波国分寺の塔心礎(塔の中心の柱を支える礎石)



川島廃寺跡出土の鬼瓦



石井廃寺で発掘された金堂基壇跡



#### 国分寺と国分尼寺

奈良時代の半ば、仏教の力で国を守り、政治を安定させようと考えた聖武天皇は、741(天平13)年に「国分寺建立の詔」を出し、諸国に国分寺や国分尼寺をつくるように命じました。

阿波国(徳島県)でも、阿波国分寺と阿波国分尼寺が建てられました。これら二つの寺院の跡が徳島市国府町と石井町で見つかっています。徳島市国府町は、その名が示すとおり、奈良時代に国府が置かれた、古代阿波の政治や文化の中心地です。国府にほど近い地に建てられた二つの寺院からは、政治と仏教が密接に関係していた奈良時代の様子がうかがえます。



国分寺・国分尼寺跡から、何がわかるのかな。



阿波国分尼寺跡出土の瓦

#### 瓦から見える仏教の広がり

現代の和風建物には、瓦屋根が用いられますが、かつては、草屋根や板屋根が一般的でした。日本の歴史上、最初に瓦屋根を用いたのが寺院です。瓦は、6世紀に寺院建築とともに大陸から伝わった当時最新の技術でした。こうした技術が中央から地方へと伝えられ、各地で寺院が建てられました。寺院には、大量の瓦が

使用されることから、寺院跡にある畑などでは、掘り出された瓦を拾えることがあります。徳島県内では、瓦の出土や発掘調査などにより、古代の寺院跡と考えられる場所が30カ所ほど知られています。

#### 県内各地の寺院跡

主な寺院跡として、大化の改新の後(7世紀後半)に造られた郡里廃寺(美馬市美馬町/国史跡)、立善寺跡(阿南市宝田町)、奈良時代(8世紀)に造られた石井廃寺(石井町/県史跡)、河辺寺跡(吉野川市鴨島町/県史跡)、川島廃寺跡(吉野川市川島町)などがあります。寺院跡は、阿波国府の周辺や板野郡に集中していますが、阿南市や美馬市、東みよし町などにも見られ、各地寺院を建てたに有力な氏族がいたことがわかります。

身近なところに古代寺院跡があるかもしれません、注意して見てみましょう。



#### チャレンジ

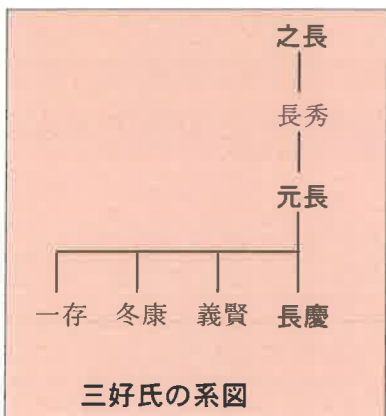
◎皆さんの住んでいる地域の近くにも古代の寺院跡があると思います。発掘調査で見つかった建物跡や出土した瓦などを見学して、当時の様子を想像してみましょう。

## 【4】阿波から都へ ～三好氏の時代～

阿波出身の三好氏はなぜ京都に進出したのだろうか、また、それは阿波国にどのような影響を与えたのだろうか、説明しよう。



三好長慶画像  
(重要文化財・堺市南宗寺所蔵)



三好氏の系図



三好之長画像  
(県指定文化財・藍住町見性寺所蔵)

### 都を目指す戦国大名三好氏

三好氏は、鎌倉時代の阿波守護小笠原氏の子孫が三好郡内に住み、地名を名字とした氏族で、室町時代に守護細川氏の家臣となり、しだいに美馬・三好地方で勢力を伸ばしました。

管領家の細川政元が、阿波守護細川家から澄元を養子として迎えた1506(永正3)年、三好之長が澄元の後見人として上洛し、管領家に仕えたことが三好氏の中央政界進出の大きなきっかけとなりました。

之長の孫元長は、港湾都市として栄えた堺(大阪府堺市)を拠点として活動し、1527(大永7)年に足利義維を将軍候補に擁立するなど、一時期、幕府政治を左右する程の力を持ちました。しかし、その元長が、本願寺の一向一揆に攻められて自殺すると、その子長慶が三好氏を継ぎました。長慶は次第に権勢を振るうようになり、ついには幕府に代わって近畿地方を支配するようになりました。

これが戦国大名三好氏による政権で、長慶は飯盛城(大阪府大東市)を拠点として、義賢(阿波)・冬康(淡路)・一存(讃岐)の兄弟とともに、最盛期には阿波も含めた8か国にわたる領地を支配しました。

しかし、1564(永禄7)年に長慶が飯盛城で死去すると、三好氏の勢力は衰え、かわって織田信長の勢力が近畿地方に進出することになりました。



港の名前	現在の所在地	積み荷
土佐泊	鳴門市鳴門町土佐泊	米・大麦・小麦・藍
撫養	鳴門市撫養町	小麦・藍
別宮	徳島市川内町上別宮	胡麻
惣寺院	不明	藍
平島	阿南市那賀川町中島	榎・材木・アラメ
橋	阿南市橋町橋	榎
牟岐	海部郡牟岐町牟岐	榎
海部	海部郡海陽町海部	榎
穴喰	海部郡海陽町穴喰	榎

阿波の港からの積み出しされた産物

### 中世阿波の港と産物

三好氏は、近畿地方での合戦のために、阿波国から大勢の兵士や物資を輸送しました。そのためには多数の船舶が必要でした。

三好氏は、淡路の由良(兵庫県洲本市由良町)を本拠地とする安宅水軍を配下に置き、船舶や乗組員を動員しました。この安宅の水軍は、平時には商品を船で運ぶ水運業者として活動しました。

室町から戦国時代の阿波でも、吉野川などの大河川や沿岸部に多くの港津や市が整備され、日用品などの物資が商品として運ばれたり、売られたりしました。

室町時代から吉野川流域で生産された藍が京都などに運ばれて阿波を治めていた三好氏にとっても、貴重な収入源になっていたと考えられています。

### 戦国城下町勝瑞の発展

1553(天文22)年、三好長慶の弟義賢が守護細川持隆を滅ぼし、阿波を統治することになりました。義賢も細川氏と同様に勝瑞(板野郡藍住町)に居城を築いて、拠点としました。当時の勝瑞は、有力な武士の館や寺院が建ち並び、商人などが訪れて茶会が催されるなど、阿波国の中心地として繁栄しました。

三好氏の館跡である国史跡「勝瑞城館跡」からは、全国最大級の庭園跡や珍しい外国産の茶道具など、当時の三好氏をはじめとする武士の暮らしぶりや勝瑞の町の様子を伝える多くの遺構・遺物が見つかっています。

#### 「兵庫北関入船納帳」とは？

瀬戸内海沿いの港から出港した船舶が兵庫津に入港した時の記録。1445(文安2)年1年間のものが伝えています。

#### 「中世阿波の特産品」

●木材  
室町時代の阿波国は西国一の木材移出国で、勝浦川・那賀川・海部川上流域が一大産地となっていました。

●藍  
室町時代から吉野川流域で生産された藍が京都などに運ばれて染料として利用されました。

●塩  
「阿波塩」として、近畿地方に運ばれました。鳴門などで生産されたと考えられます。



茶碗



花器

## 【5】なぜ徳島に城下町ができたのか

16世紀終わり頃に阿波国に入った蜂須賀氏は、河口デルタ地帯に城下町をつくり徳島と名付けた。城下町徳島には、どのような身分の人たちが暮らし、どんな特徴をもった都市になったのだろうか、説明しよう。



「阿波国徳島城之図」  
1646(正保3)年(個人蔵)

上の城下町の絵図  
を見て、どんなこと  
が分かりますか。



### 蜂須賀氏の支配と徳島

1585(天正13)年羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)による四国平定後、阿波国は秀吉の家臣として活躍していた蜂須賀氏(尾張国蜂須賀村出身)に与えられました。蜂須賀氏は、はじめ要害堅固な山城・一宮城を本拠としましたが、あらたに、吉野川河口のデルタ地帯に位置する涓津を中心に、徳島城と城下町の建設を開始しました。翌1586年には徳島城の中心部が完成し、ここを新しい拠点として徳島藩の領国支配を進めていきました。

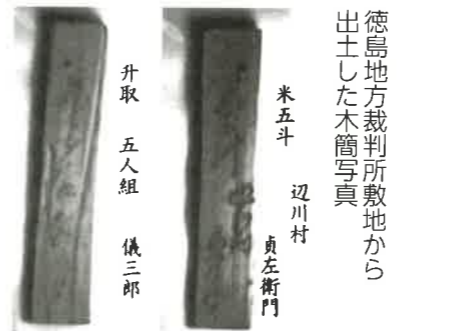
一方、蜂須賀氏は、徳島城築造と同時に、阿波国内に九つの支城三好郡大西城・美馬郡脇城・麻植郡川島城・板野郡西条城・同郡岡崎城・名東郡一宮城・那賀郡富岡城・同郡仁宇城・海部郡鞆城)を設置し、そこに重臣と兵300人を駐屯させた軍事体制を主軸とした領国支配を行いました。しかし、1615(元和元)年・1638(寛永15)年に幕府が出した一国一城令によって九城は廃止され、徳島城だけが支配の中心として位置づけられ、城下町の拡大が進みました。支配体制が、軍事中心から行政中心へと徐々に移っていったのです。

### 徳島城下町の構成

城下町の大半は武家地でした。城の周囲には重臣の武家屋敷や、領内からの年貢米等を納める蔵が広がり、城の東の安宅には水軍の基地が、城下町の端にあたる佐古・富田・助任には足軽屋敷が置かれました。眉山山麓には寺町が置かれました。一方、町人地は、新町川をはさむ内町と新町や、福島・助任・佐古に置かれま



「徳島子蘭盆組踊之図」(個人蔵)



徳島地方裁判所敷地から  
出土した木簡写真



絵はがき「藍場の昔懐かしき新町川」(個人蔵)

貞享2(1685)年の徳島城下		
地区	町名	軒数
内町地区	紙屋町	87
	紀伊国町	87
	通町	76
	新シ町	101
	西横町	34
	魚町	42
	東船場片町 西船場片町	5 18
福島地区	福島片町	47
助任地区	助任片町	57
	同所裏町	4
	同所裏	15
	同	12
	同所裏	17
新町地区	新町橋筋	12
	鍛冶屋町	92
	富田町	48
	紺屋町片町	12
	桶屋町	28
	新魚町	35
	湯屋町	15
	刻町	14
	新町東船場片町	11
	新町西船場片町	49
大工町	123	
新小橋筋	50	
下代町	19	
法花寺町	15	
西新町筋	174	
西新町山路片町	21	
佐古地区	佐古町	155
合計		1,558

『大正三年版「阿波藩民政資料」より作成。町名・数字は原文のまま。』

した。町人地には、町が自治組織として存在し、町奉行を中心とした町方支配のもとに編成されていました。17世紀後半には、町人地だけで人口20,590人(家数1,558軒)となるなど、領内の商工業の中心地として栄えました。

### 「水の都」－物流の結節点－

徳島城下町では、いくつも流れる川筋を、天然の堀として軍事的に利用すると同時に、船による物資の輸送や水上交通にも利用しました。城下町の武士や町人たちの生活のためには、多くの物資を領内や各地の都市から移入させる必要があったからです。一方、城下町は、領内の産物を、大坂や江戸をはじめとする全国各地の都市に販売していく拠点としても機能していきました。例えば、新町川沿いの藍場浜周辺では、18世紀後半から藍大市が開かれ、白壁の藍倉が建ちならぶなど、領内でつくられた藍玉染染の取引の中心となりました。

1894(明治27)年には、徳島市の人口は6万人弱と、四国第一の都市となりました(全国第11位)。しかし20世紀初頭に藍産業が衰退し、20世紀後半以降は陸上交通が主流となるのにしたがって、「水の都」の様相は大きく変化していきました。

町人地で盛んになった文化には  
どんなものがある  
のでしょうか。



### チャレンジ

阿波の産物(藍・塩・材木など)は、阿波のどの地で作られ、どこに販売されていったのでしょうか。地図に表してみよう。



## [6] 小学校のはじまり ～学制と徳島の教育～

1873年に徳島にはじめて小学校ができた。徳島県(名東県)では、小学校がどのように生まれていったのだろうか、そして教育の内容と方法にはどのような特色があったのだろうか。また、学制による新しい小学校教育は、徳島の人々にどのような影響を与えたのだろうか、説明しよう。

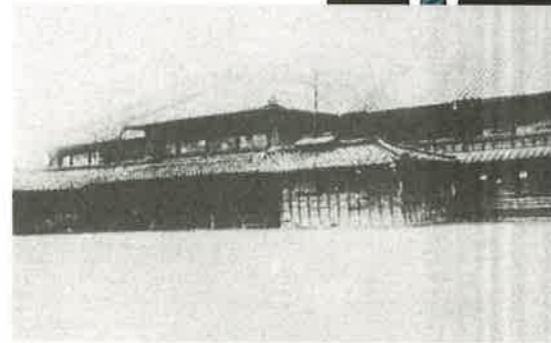
学問は立身のための資本というべきものであって、人間は誰しものが皆、学ばなければならないのである。今までは、学問は武士以上の身分がすることとして、農民・町人・女性は学問のことは考えず、学問の意義を理解していなかった。これは幕府時代の悪習で、文明は広まらず、人々の才能や技能が進歩せず、貧乏し破産し、身をほろぼす者が多く出る理由である。

今後は、華族・士族や農民・町人および女性を問わず、必ず村に不学の家がなく、家に不学の人がなくなるように決意する。人の父兄という者は、よくこの意味を理解して、その子弟を必ず学校へ通わせるようにしなければならない。

【「学事奨励に関する仰せ出され書」一部要約】

学制の公布

小学校の教育が、なぜ必要だと考えられたのかな。



明治時代の小学校・寺島校  
〔内町小学校沿革史〕より〕



学制は、何をめざしたのですか。

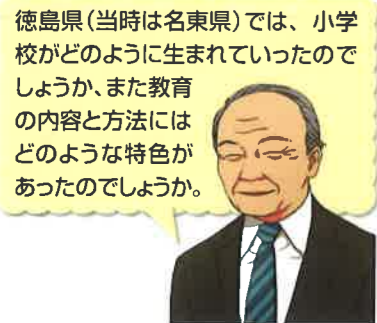
### 学制の発布と小学校の設立

明治政府は、近代化を進めるためには、国民の教育が欠かせないとして、1872(明治5)年に学制を公布しました。学制では、国民一人一人が身を立てていくために役立つ知識や学問を、身分や財産、性別などに関わりなく国民に等しく義務教育として行うべきだと説きました。学制の定めにより、全国を8つの大学区に、各大学区を32の中学区に、各中学区を210の小学区に分け、その小学区に一つずつ小学校を置くことにしました(人口約600人に1校)。

### 徳島ではじまった小学校教育

徳島では、1873(明治6)年に、出来島に一番小学校(旧西校)、寺島に二番小学校(旧南校)、助任に三番小学校(旧北校)が開設されました。就学は6才からと決められていましたが、当分のうち男子は10歳から15歳まで、女子は10歳から13歳までの児童を入学させることにしました。そのころの名東県(阿波・淡路・讃岐を含む)では、公立小学校31校、私立小学校439校が誕生しています。

小学校での教育は、かとう下等四年制(6～10歳)とじょうとう上等四年制(10～14歳)の八年制とされ、つづり下等小学校では、綴字・習字・単語・会



徳島県(当時は名東県)では、小学校がどのように生まれていったのでしょうか、また教育の内容と方法にはどのような特色があったのでしょうか。



名東県で発行された小学校教科書

明治初年の教授法

年次	学齢人口(人)	学 齡 就学人口(人)	学 齡 外 就学人口(人)	学 齡 就学率(%)	全国平均(%)
1873(明治6)年	190,573	56,690	4,887	32.4	28.1
1874(明治7)年	207,835	60,940	3,546	29.3	32.2
1875(明治8)年	129,342	29,946	1,404	29.9	35.3

名東県の小学校就学状況

話・読本・修身・国体・書牘(手紙)・文法・算術・養生法・地理大意・体操・唱歌の14科目が置かれました。また、上等小学校では、その他に史学大意・幾何学大意・算術大意・博物学大意・化学大意・生理学大意などが加えられました。教室では、全員が同じ科目を学ぶようになり、掛図や実物を活用して問答中心の授業が行われました。

### 学制が徳島の人々に与えた影響

小学校教育が始まったころは、校舎の建設や教員の雇用は全部町村まかせだったので、これは財政上の大きな負担になりました。当時、新設校の校舎の多くに民家や寺社が借用されたことは、こうした特色をよく表しています。また、親にとっては、授業料の負担に加え、子どもは家業や家事の担い手という考え方が強く、就学率はなかなか上がりませんでした。1873年の名東県の就学率は約28%でしたが、各小学校では、授業料を減免したり、親に対して就学の意義を説明するなど地道な努力が続けられました。

学制による新しい小学教育は、徳島の人々にどのような影響を与えたのでしょうか。



### チャレンジ

あなたの身近な地域で明治時代に設立された小学校の歴史について調べてみよう。

## 【7】 阿波おどりの歴史と魅力について語ろう

阿波おどりは歴史的にどのように変化していったのだろうか、その特色と魅力とは何だろうか、資料から読み取ろう。

### 現代の阿波おどり



鈴木芙蓉「阿波盆踊図」  
(個人蔵)



徳島県有形文化財  
「徳嶋盃蘭盆組踊之図」の一部  
(個人蔵)

### 阿波おどりの歴史

「阿波おどり」の起源は、お盆に祖先の霊を供養するために踊られた「盆踊り」にあると考えられています。

左の図は、最古の盆踊り図とされるもので、この世に戻る祖先の霊のための大きな傘の横で、廻り踊りをする盆踊りの原形が描かれています。

また、盆踊りの形態の変遷を見ていくと「風流踊り」の影響が見られます。

風流とは、優美で、人の目を驚かす作り物や仮装を伴うものです。その後、徳島城下では、風流踊りを継承する「組踊り」が盛んに演じられました。しかし、城下の地域集団の町組が巨大な作り物を中心に踊りを競ったため華美となり、たびたび藩から取り締まりをうけました。

盆踊りが最も流行したのは、幕末の文化・文政期(1804~1830年)です。それを支えていたのが当時全国的に経済活動を繰り広げていた徳島の商人たちでした。「阿波盆踊図屏風」では、現在の阿波おどりにつながる当時の「ぞめき踊り」(囃子と唄声に合わせて浮かれ騒ぎ、一方向に行進する踊り)が見えます。

明治期以後も、盆踊り(阿波の盆踊り)は徳島市民に受け継がれ、郷土の夏の芸能として広く定着していきました。

昭和初期には、日本画家の林鼓浪が「阿波の盆踊り」を「阿波おどり」と呼ぶよう提唱し、昭和の観光ブームが巻き起こって以降、伝統を受け継ぐとともに流行を取り入れ、絶えず進化、発展してきたのが今の阿波おどりなのです。



### 風流踊りの再現



吉成霞亭「阿波盆踊図屏風」六曲一双の一部 西野武明氏所蔵



大正時代の絵葉書

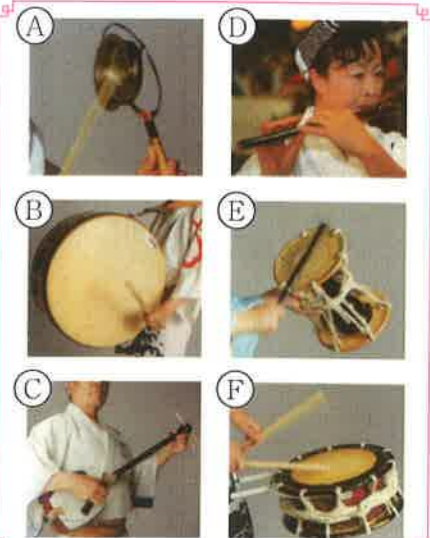


多田小餘綾(お鯉さん)  
百寿記念CD「唄声は時代を超えて」  
(立木写真館撮影)

### 「阿波よこの」の歌詞

ハアラエライヤッチャエライヤッチャヨイヨイヨイヨイ  
阿波の殿様蜂須賀さまが今に残せし阿波踊り  
笠山通れば笠ばかり猪豆喰てホウイホイホイ  
笛や太鼓のよこのばやし踊りつきせぬ阿波の夜  
踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにゃ損々

主な鳴り物  
「とくしま観光ガイド」  
(徳島市・徳島市観光協会)



① 鉦 ② 大太鼓 ③ 三味線  
④ 笛 ⑤ つづみ ⑥ 締太鼓

### 阿波おどりの魅力とは

阿波おどりをおそらく世界に初めて紹介したポルトガル人

あらゆる死者に捧げられた祭りらしい神秘的熱狂につつまれていた。その数日間生者と死者はこの世で特別の友愛の日々をすごし、誰もが…亡くなった愛しい人々をいつくしむ。  
『徳島の盆踊り』1916 モラエス



東京や北海道など60カ所以上に広がっているよ。主な祭りのうち、1日当たりの集客数が多いのは、  
・青森ねぶた祭り……………59万人  
・山形花笠祭り……………45万人  
・さっぽろ雪まつり……………32.8万人  
・徳島市阿波おどり……………29万人

『阿波踊り讃歌』徳島ペンクラブ参照

この爺さん四国の阿波、剣山のふもとに住んでいたのである。(中略)  
鬼たちの芸のないことおびたしい。「ひとつ私の手踊りでもみせましょうかい。」と円陣の真ん中に飛び込んで自慢の阿波踊りー。  
『瘤取り』1945 太宰治

徳島未経験の作者が創作

席上、女性のひとりだけが、「いまはこれ(阿波おどり)だけですね。よう残してくれはったものやなあ」(中略)

阿波に、「これだけですなあ」というものがあるというのは、大きい。他の府県がうらやましがって、西洋風のパレードをやったり、民謡と日本舞踊の街頭進出を試みたりしているが、洗練度がちがう。歴史は、真似られないものなのである。  
『街道をゆく三十二』1993 司馬遼太郎

夜、料亭で阿波おどりを見て

青年海外協力隊員、荒川さんと同行したJICAスタッフと一緒に子どもたちの前で阿波踊りを披露することになった。鳴り物もない即興の踊りだったが、それでも子どもたちは手をたたいて喜んでくれた。

2ヵ月がたち、荒川さんからメールが届いた。「今も時々『今度、あの人たちはいつ来るの?』と聞いてきます。こちらが何も言わないのに阿波踊りを踊るんですよ。もちろんエジプト流の踊りですが(笑)。」

徳島新聞「アフリカの今」2013.4.27

## 【8】阿波に根付いた人形浄瑠璃

阿波人形浄瑠璃は、どのように徳島の人々の暮らしに根付いていったのだろうか、具体的に例示し、知識を深めよう。



『傾城阿波の鳴門』順礼歌の段より



太夫(左)と三味線



人形遣い



天狗屋久吉

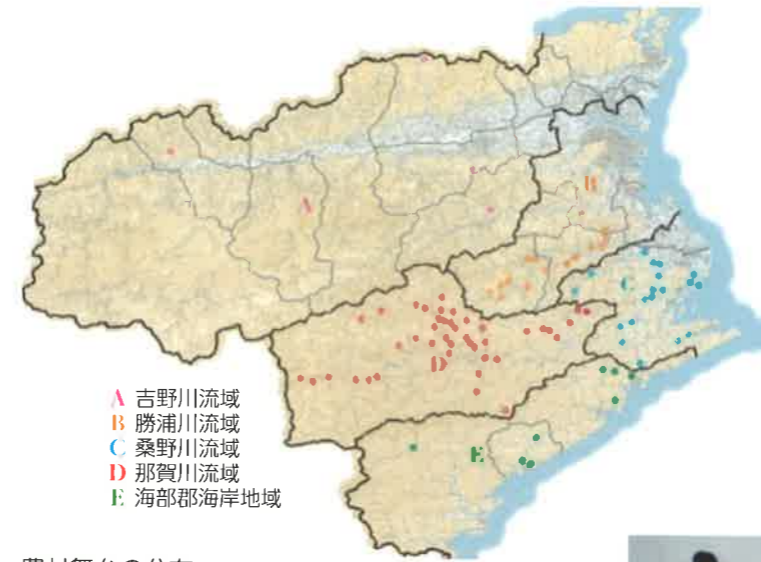
### 人形浄瑠璃の歴史

人形浄瑠璃は、太夫、三味線、人形遣いが一体となって演じる芸能です。低く大きな音が出る太棹三味線の伴奏に合わせて、太夫は物語を語ります。人形遣いは基本的に一体の人形を三人で操ります。(「三人遣い」。他地方では一人遣いもあります。)

京都・大坂※(明治以降「大阪」と表記)を中心に太夫と三味線だけの演奏で語られていた「浄瑠璃」は、江戸時代の初めに西宮神社(兵庫県)の「人形遣い」と一緒に、人形浄瑠璃として発展しました。大坂では、竹本義太夫の語りが人気となり、浄瑠璃の語りは「義太夫節」と呼ばれるようになります。やがて、1703(元禄16)年に近松門左衛門の『曾根崎心中』が上演され大成功すると、人形浄瑠璃は全国に広まりました。明治時代に入ると、植村文楽軒が「文楽座」という人形座をつくりまします。これが現在の「文楽」という人形浄瑠璃の代名詞へとつながっていきます。

### 阿波人形浄瑠璃の特徴

西宮神社の人形遣いの多くは淡路島の人たちでした。当時の淡路島は徳島藩の領地であったため、歴代藩主に保護された淡路の人形座は、徳島城下で多くの興行を行いました。そのため、人形



農村舞台の分布  
(2013現在・NPO法人  
阿波農村舞台の会提供)



農村舞台  
(国指定重要有形民俗文化財・犬飼(徳島市八多町)の舞台)



阿波木偶人形の頭



ふすまからくり(犬飼の舞台)

浄瑠璃は人々の娯楽として徳島に根付いていきました。小屋掛けの仮設舞台や、常設の農村舞台で盛んに公演が行われ、明治時代には県内に70以上の人形座がありました。徳島の人形浄瑠璃は、屋外で演じられることが多かったため、人形師の天狗屋久吉(1858~1943年)は人形の頭を大きくし、目や鼻もはっきり彫りました。人形遣いは人形の動きがよく見えるように、人形を大きく傾けて演じ、振りも大きくしました。このような特徴を持つ徳島の人形浄瑠璃を「阿波人形浄瑠璃」と呼びます。

### 阿波人形浄瑠璃の現在

阿波人形浄瑠璃は、映画など新たな娯楽の登場や戦争の影響で急速に衰えましたが、1946(昭和21)年に「阿波人形浄瑠璃振興会」が結成されたことなどをきっかけに復活し、1999(平成11)年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。復活した農村舞台だけでなく、阿波十郎兵衛屋敷、部活動や伝承教室、国民文化祭などさまざまな場で阿波人形浄瑠璃は演じられています。また、徳島は多くの人形師も輩出していることでも、全国的に知られています。現在でも全国各地から人形の注文や修繕の依頼が来ており、伝統と技が受けつがれています。

1971年の調査では、全国で確認された人形芝居関係の農村舞台は216棟あり、その96%にあたる208棟が徳島県内にあったことが報告されています。



小屋掛け=仮設の舞台  
(徳島中央公園)



伝承教室の様子

## 【9】「板東俘虜収容所」で結ばれた、日本とドイツとの交流

板東俘虜収容所でのドイツ兵俘虜たちの生活の様子や活動をとおして、板東俘虜収容所が、なぜドイツと徳島との交流のきっかけとなったのか、説明しよう。



板東俘虜収容所 要図  
(ドイツ日本研究所蔵)



板東俘虜収容所 全景  
(現在の鳴門市大麻町)

### 「板東俘虜収容所」とは

板東俘虜収容所は、第一次世界大戦によって俘虜となった中国山東省青島のドイツ兵を収容するために、1917(大正6)年、徳島県板野郡板東村松(現在の鳴門市大麻町松)に建設されました。収容所での俘虜の処遇は、基本的には、当時の国際規約に基づいて行われましたが、板東俘虜収容所では所長松江豊寿<sup>とよひさ</sup>の人道的な考えの下で、国際的な標準をはるかに上回る処遇が行われ、その運営はドイツに帰国した元俘虜からも高く評価されました。

### 松江所長の人道的運営と俘虜の生活

松江所長は可能な限り俘虜の人たちの自由と自主的な活動を認めました。約1000名のドイツ兵がもともと従事していた職業は、機械・金属・飲食料・日用品などの製造や教員・宣教師・法律家と多彩でした。俘虜の中にはこうした経験を活かして、所内にさまざまな商店を開く人もいました。また、所内には2つの印刷所があり、収容所内だけで使用することができる紙幣や切手の他、「デイ・バラック」という新聞も発行しました。さらに俘虜が地元の人たちに先進的な技術指導を行うことも積極的に行われ、洋菓子、パンなどの作り方や、西洋野菜の栽培、牧畜、建築設計などの技術が伝えられました。



松江豊寿 所長(1872~1956)  
(鳴門市ドイツ館所蔵)



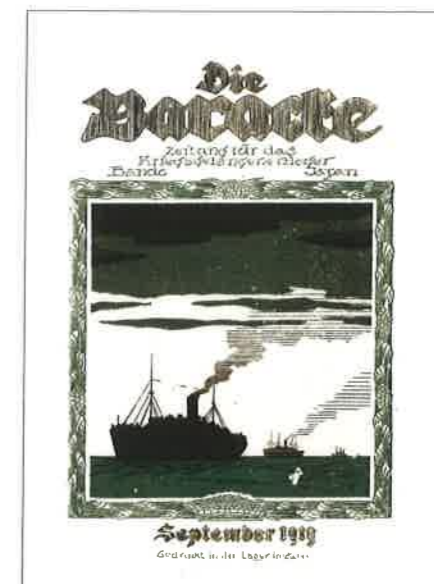
鳴門市ドイツ館 全景

### 文化・スポーツ活動と地元の人々との交流

俘虜は文化・スポーツ活動も盛んに行いました。特にサッカー・クリケット・テニスなどが盛んで、収容所前には専用コートが整備され、俘虜によって管理運営されていました。当時としては珍しかった体操などには近隣の体育教師や生徒が見学を訪れ、演技



板東俘虜収容所新聞「デイ・バラック」  
第1巻の扉(鳴門市ドイツ館所蔵)



板東俘虜収容所新聞「デイ・バラック」  
最終版表紙(鳴門市ドイツ館所蔵)

の指導を受けたこともありました。そのほか、収容所北側の阿讃山脈を越えて瀬戸内海方面まで水泳に出かける遠足活動が人気を集めていました。

また、文化活動として音楽会・演劇会・講演会・展覧会などが開催され、図書室では図書の閲覧・貸し出しが行われました。音楽会は楽団や合唱団が定期的に演奏会を開き、ベートーヴェンやワーグナーなどの数々の名曲が演奏されました。それぞれの活動にあたっては、印刷所でプログラムや資料などが印刷販売されて、俘虜の人たちに広く参加が呼びかけられました。

俘虜の人たちによるスポーツ・文化活動は、本来は収容所内での心身の鍛練と娯楽を目的としたものですが、収容所外でも公開され、地元の人たちとの交流に大きな役割を果たしました。

### 「板東俘虜収容所」と日独交流

1919(大正8)年、ドイツ兵達は、収容所内の池の畔に、収容所で亡くなった俘虜達の慰霊碑を建設しましたが、翌年、解放によって収容所が閉鎖された後は草に覆われ、長く忘れられていました。第二次大戦後、その慰霊碑の存在に気づき、長年にわたって清掃活動を続けてきた高橋春枝さんなど地元の人たちの活動が新聞で紹介され、これを知ったドイツ大使が1960(昭和35)年に現地を訪れたことがきっかけとなり、元ドイツ兵俘虜と板東の人たちとの交流が再び始まることになりました。

その交流は1973(昭和48)年に鳴門市とドイツ・リューネブルク市が姉妹都市となるなどますます活発となっています。現在、収容所跡には「鳴門市ドイツ村公園」、その近くに「鳴門市ドイツ館」が建設されて、元ドイツ兵俘虜から寄贈された当時の貴重な写真や資料が多数展示され、日独交流の拠点となり、多くの人が訪れています。



バラック内部の様子  
(鳴門市ドイツ館所蔵)

2007(平成19)年には、徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州が友好提携を結んでいます。



## 【10】 アジア初演「歓喜の歌」

なぜ徳島が「第九」アジア初演の地となったのだろうか、その歴史的背景を説明しよう。



ベートーヴェン  
「第九」交響曲演奏会  
(NPO法人鳴門「第九」  
を歌う会)

「第九」の歌詞はドイツの詩人シラー(1759~1805)によって書かれました。ドイツ語の歌詞の意味を学んで一緒に歌いましょう。



### ★歌詞(一部抜粋)

Freude, schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder,  
was die Mode streng geteilt;  
alle Menschen werden Brüder,  
wo dein sanfter Flügel weilt.  
...

### (日本語訳)

喜びよ、美しい神々の閃光、  
エリジウム楽園から来た娘、  
我らは情熱に酔って、至福の、  
貴方の聖なる領域に入る。  
世の変遷によって切り分けられた  
全てのものは、貴方の魔法のような力で  
再びに結びあわせられる、  
貴方の温厚な翼の下にいる人々は  
皆兄弟になる。

## 鳴門市の「第九」は6月開催

ベートーヴェン作曲の交響曲第9番ニ短調作品125は、「第九」の呼び名で多くの人に親しまれ、年末の12月になると日本各地で演奏会が開かれています。

徳島県でも、鳴門市で毎年6月に「第九」の演奏会が開かれています。では、ほとんどの地域が年末に開催されているのに対し、鳴門市では、なぜ6月に開催されるのでしょうか。その理由については、日本における「第九」の演奏の歴史とそれにまつわるエピソードが関係しています。

「第九」交響曲の初演は、1824年オーストリアのウィーンで行われました。アジア・日本で初めて全曲が演奏されたのは、それから94年後の1918(大正7)年6月1日とされています。この「第九」交響曲アジア・日本初演の地が、板東俘虜収容所があった徳島県板野郡板東村(現在の鳴門市大麻町)だったのです。鳴門市では、この日を記念し、6月1日を「第九の日」と定め、毎年6月の第一日曜日に演奏会を開催するようになりました。

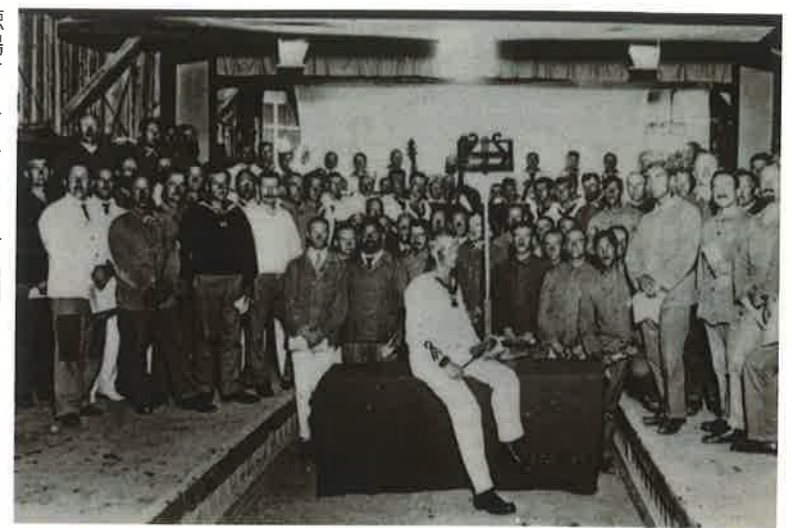
## 「徳島オーケストラ」

板東俘虜収容所には、エンゲル二等海兵が指揮する「エンゲル・オーケストラ」と、ハンゼン軍楽兵曹の指揮する「徳島オーケストラ」、吹奏楽を中心とする「シュルツ・オーケストラ」がありました。このうち、記念すべき日本・アジア「第九」全曲の初演を行ったのは「徳島オーケストラ」でした。「徳島オーケストラ」は、もともとは、1914(大正3)年に、現在の徳島県庁の敷地内に仮に設置された徳島俘虜収容所内で結成された楽団でした。徳島俘虜収容所の新聞「徳島新報1号」に、俘虜の一人が徳島市内の楽器店にギターを注文したところ、間違っってチェロを持ってきたことがオー



ベートーヴェン「第九」交響曲全曲  
コンサートプログラム表紙(鳴門市ドイツ館所蔵)  
1918(大正7)年6月1日開催

徳島オーケストラと合唱団  
(鳴門市ドイツ館所蔵)



ケストラの始まりになったとエピソードを紹介しています。また、足りなかった楽器が市民から寄附されたことも記されています。徳島オーケストラ結成には、ドイツ兵俘虜と徳島市民との友好的な交流があったことが分かります。徳島俘虜収容所は1917(大正6)年4月の板東俘虜収容所開設に伴って閉鎖されましたが、徳島オーケストラは板東へ移った後も収容所内外で活発な演奏活動を続けました。

## 「第九」アジア・日本初演

徳島オーケストラによる「第九」全曲演奏は、1918(大正7)年6月1日に、収容所内の「バラック(兵舎)」1号棟の講堂で行われました。「第九」が作曲された1824年頃には、交響曲に人の声を加えることはどうも考えられないことであったといわれます。しかし、ベートーヴェンはあえて終楽章に合唱を組み込むという冒険に挑み、大成功を収めました。板東俘虜収容所内での演奏に際しても、4月以降、合唱団との入念な合同練習、前日31日の公開リハーサルと、周到な準備が行われました。この時の公演のプログラムが鳴門市ドイツ館に現在も残されています。これによると、合唱団は80名、独唱者4名は全員男性でした。本公演は、6月1日の夕方6時30分から行われたことが分かります。

## 世界に人類愛を発信する「なると第九」

この「第九」アジア初演から70年近くを経た1982年、鳴門で、第1回「第九」交響曲演奏会が盛大に開催されました。その後、この演奏会は、国内外の参加者も増え、日本を代表する「第九」演奏会として、板東俘虜収容所が育んだ人類友愛の精神を世界に発信し続けています。



ベートーヴェン「第九」演奏会  
「世界に広がれ!とくしま歓喜の歌」  
プロジェクト(2016.1.30)



ベートーヴェン「第九」演奏会の  
パンフレット

## 【11】 人々の衣服を染めた阿波の藍

阿波藍は、どのように生産・販売されてきたのだろうか、また、そこに隠された藍作農家・商人の知恵や工夫とはどのようなものだったのか、説明しよう。



江戸時代初期に描かれた吉野川(正保図)



田中家住宅主屋(石井町)



田中家住宅配置図



葉藍の様子(5月頃)



藍納屋の軒先につるされた和舟

### 「四国三郎」吉野川と藍づくり - デメリットをメリットに -

吉野川は、「四国三郎」と呼ばれ、日本の三大暴れ川として知られる河川です。江戸時代、吉野川には堤防がなかったため、台風の際に大洪水が起きていました。洪水は、住民の生活に大きな被害を与える一方、収穫後の藍畑に上流の肥沃な土を流入させるというよい点もありました。また、藍は台風の前に刈り取りが終わってしまうため、阿波に適した作物でした。

### 藍屋敷「田中家住宅」- 洪水との戦いから生まれた先人の工夫 -

徳島の藍作りを今に伝える建物として石井町の重要文化財「田中家住宅」(国指定)があります。田中家は、今からおよそ390年前に、徳島藩の招きにより播磨(今の兵庫県西部)から藍作を指導するために、石井町藍畑に移り住みました。田中家は農地の開発と藍作を進めましたが、屋敷や田畑が毎年のように洪水で被害を受けるため、江戸時代末に敷地の造成をはじめ、約30年をかけて現在の建物をすべて完成させたといわれています。

吉野川の洪水に備えて高い石垣を築き、その上には表門・広場・主屋が建ち、藍納屋・藍寝床など、藍作に使用される建物が建ち並びます。

このような屋敷の様は、さながら城郭を思わせる造りとなり、阿波の大規模な藍商農家の特徴で、「藍屋敷」と呼ばれています。

### 新町川沿いの藍倉 - 今はなき、懐かしき景観 -

藍作りが盛んに行われた頃には、製品としての藍(「藍玉」)の多



田中家北藍寝床脇の石垣



美馬市脇町南町  
(国選定重要伝統的建造物群保存地区)



奥村家住宅  
(国選定有形文化財(藍住町))



阿波藍製造法  
(国選定保存技術)

くは新町川沿いの藍倉<sup>あいくら</sup>に集められ、船で全国に送られました。現在、運輸の主流は陸運ですが、当時は水運が主流でした。かつては、新町川の両岸に藍倉<sup>のき</sup>が軒を連ね、川面に映る白壁と青石は、徳島の繁栄を物語る景観でした。

### 藍作の衰退のあともなお - 今も残る藍作の面影 -

明治に入り、安価なインド藍やドイツからの化学染料(人造藍<sup>じんぞうあい</sup>)の輸入が始まると、藍は商品作物として役割を次第に終えていきました。

藍作の衰退のなかで、吉野川中下流域の藍作地帯では他の作物への転換が進み、京阪神への農作物の供給地として重要な役割を果たすこととなります。

吉野川流域では、今も藍作の繁栄の象徴である「藍屋敷」が残っています。「田中家住宅」のほか、「奥村家住宅」は、阿波藍に関する展示・体験施設、藍住町立歴史館「藍の館」として活用が図られています。また、「美馬市脇町南町」は、かつて吉野川中流域での阿波藍の集積地として栄えた商家町で、現在では年間約20万人が訪れる徳島を代表する観光地となっています。

阿波藍は途絶えることなく作り続けられ、数こそ少なくなりましたが約675俵(平成24年度実績)が徳島県内で製造され全国に送られています。阿波藍の優れた製造技術を保存するため、1978(昭和53)年に国は阿波藍製造を「選定保存技術」に選定しました。この技術は、今も「阿波藍製造技術保存会」によって受け継がれています。



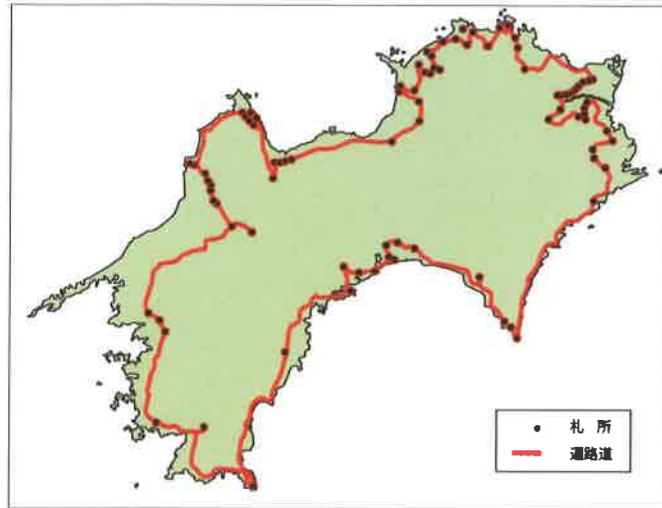
新町川の藍倉(昭和初期)  
(徳島県立文書館提供)

「重要伝統的建造物群保存地区」とは、市町村が決定した伝統的建造物群保存地区のうち、特に価値が高いものとして国が選定したもので、「選定保存技術」というのは、文化財保存のために欠くことのできない伝統的な技術や技能で、保存措置を講ずる必要があるものことです。



## 【12】 四国遍路とお接待

四国遍路は、人々にどのように支えられ、受け継がれてきたのだろうか、資料から読み取り、知識を深めよう。



四国八十八箇所と遍路道



第1番札所 霊山寺(鳴門市大麻町)

徳島県内には、1番から23番、66番の合わせて24ヶ所の札所があります。



### 四国遍路の歴史

四国遍路は平安時代に四国で修行をした空海の足跡を訪ねて、僧や山伏たちが四国の山海を巡り、修行をしたことに始まると言われています。江戸時代になると、一般の民衆も四国を巡るようになりました。札所を結ぶ道は、「遍路道」と呼ばれます。お遍路さんは全長およそ1,200kmの道のりを50日以上かけて歩いて巡りました。現代は自動車による遍路が主流となっていますが、近年は昔ながらの歩き遍路が復活し、外国人のお遍路さんも増加しています。四国遍路は時代とともに変化しながらも、民衆により受け継がれてきたのです。

### 遍路道の保護

遍路道には、道案内のための「道しるべ」やお寺への道のりを示した「丁石」、遍路の途中で亡くなったお遍路さんのお墓「遍路墓」などの石造物が数多く残っています。こうした石造物は、四国遍路の歴史を物語る貴重な文化財です。

現在、遍路道のほとんどは、舗装道路となっていますが、昔の姿をとどめる遍路道は、国の史跡として保護されています。徳島県でも平成28年度現在で遍路道約11.4kmが「阿波遍路道」として史跡に指定されています。こうした昔ながらの遍路道を保護することも、四国遍路を将来に伝える上で大切なことです。



お遍路さん



江戸時代に建てられた道しるべ(左)と、現代の道しるべ(右)



阿波遍路道「鶴林寺道」(勝浦町)



丁石  
三十九丁 山口村の大五良の母が建てた



遍路墓(1852(嘉永5)年に亡くなった芸州(広島県)松江村の仁助さんという人の墓)

### お接待

「お接待」とは、道行くお遍路さんに食事や宿などを提供することで、地域の住民が遍路を支える役割を果たした、四国遍路に特徴的な古くからの習慣です。その精神は現代にも受け継がれ、お接待の会や地域の婦人会などにより各地で行われています。また、遍路道を地域の宝物として将来に伝えたいと、草刈りや補修などを行うボランティアグループもあります。最近では遍路道を舞台としたウォーキングも盛んに行われ、お遍路さん以外の人も遍路道を歩くようになってきました。



勝浦町のボランティアグループによる遍路道の補修作業

### 四国遍路を世界遺産に

現在、四国4県は四国遍路を世界遺産に登録しようと様々な取り組みを行っています。四国遍路を未来に向けて守り伝えるとともに、四国の歴史、文化を世界中に発信する取組に力を入れています。



第3番札所 金泉寺(板野町)でのお接待風景

### チャレンジ

四国遍路に来ている人の車のナンバープレートを確認して、どれくらいの方が県外から来ているか、調べてみよう。

### 【13】 橋でつながる人・もの・地域

三好橋・阿波中央橋・大鳴門橋などの「川に架けられた橋」と「海に架けられた橋」に、人々はどんな期待をよせたのだろうか、またこれらの橋は私たちの暮らしにどのような影響を与えたのだろうか、説明しよう。



阿波しらさぎ大橋  
(徳島市住吉と  
同市川内町を結ぶ)



阿波中央橋  
(吉野川市鴨島町と  
阿波市吉野町を結ぶ)



吉野川橋  
(徳島市上助任町と  
同市応神町を結ぶ)



岩津橋  
(吉野川市山川町と  
阿波市阿波町を結ぶ)

#### 橋の博物館とくしま



三好橋 (三好市池田町)

「橋の博物館とくしま」ホームページ  
<http://www.pref.tokushima.jp/bridge/>

徳島県には大きな川が、紀伊水道に向かって3本流れています。特に吉野川には現在たくさんの橋が架けられています。昭和以前にも橋は架けられていましたが、鋼材を使用して初めて作られた橋は、1927(昭和2)年に完成した三好橋でした。翌年の1928(昭和3)年には吉野川の下流に吉野川橋が完成しました。完成当時は川に架けられた橋としては東洋一でしたので、見物人が多く集まったそうです。

この後、2012(平成24)年完成の阿波しらさぎ大橋の架設まで、約90年の間に吉野川にはいろいろな工法による46もの橋が架けられました。

#### 「わたし(渡し)」の時代

これらの橋が架けられる以前の吉野川北岸地域と南岸地域を結び役割をしたのは、「わたし(渡船)」でした。1874(明治7)年における県下の有料渡船場の数は137ヶ所で、1881(明治14)年には154ヶ所もありました。

吉野川北岸地域と南岸地域を結ぶ主な手段が「わたし(渡船)」から、橋に変わり人々の結びつきや、さまざまな商品、サービスの交流は活発になりました。しかし、これらの橋のかかったことによる影響は、吉野川流域の地域、あるいは県内レベルの範囲にとどまったと思われます。



どんなところに橋を架けたのかな?



明石海峡大橋

#### 本州四国連絡橋完成

県レベルを超えた大きな地域との結びつき、交流を実現したのは、本州四国連絡橋(神戸-鳴門ルート、児島-坂出ルート、尾道-今治ルート)が、完成してからです。1998(平成10)年には世界最長の吊り橋の明石海峡大橋が完成、翌年の1999(平成11)年には、瀬戸内しまなみ海道の来島海峡大橋が完成して、3ルートの全ての橋が完成したことになります。これで、四国と本州が橋でつながりました。

3ルートの完成までは、四国と本州の人、ものの輸送手段の主役はフェリーボートでした。フェリーボートは、車と人を同時に乗せて運ぶことができたので、大変便利な海上輸送の手段でした。

#### 大架橋と高速道路による結びつき

ところが、3ルートの完成と高速道路網の発達でフェリーボートはほとんど姿を消しました。高速道路や道路網の発達に伴い、国内における人の移動、ものの輸送手段の中心が車になったのです。

徳島県でもフェリーボートに変わって高速バスを利用する人々が急増してきました。このようなことは、大鳴門橋、明石海峡大橋が完成するまでは見られなかったことなのです。このように大架橋の完成・開通やそれに連絡している高速道路網の発達は、私たちの住んでいる地域や生活、産業に大きな影響を与えています。新しい場所に大きな橋が架かったり、道路ができることで、私たちの住んでる地域に変化をもたらすのです。

【徳島県内発着の高速バス運行状況】

(2014年11月3日発行の県内新聞掲載による「高速バス・フェリー時刻表」より作成)

行き先 方面	発着地	1日の 発着本数	所要時間	大鳴門橋・明石 海峡大橋経由
京 阪	徳島 ←→ 神戸	3 6	約2時間30分	
	徳島 ←→ 大阪	4 5	約3時間	
神 戸	徳島 ←→ 関西空港	1 0	約2時間45分	
	徳島 ←→ 京都	7	約3時間	
名 古 屋	徳島 ←→ 名古屋	2	約5時間	
	非川・池田 ←→ 神戸	3	約3時間	
東 京	非川・池田 ←→ 大阪	6	約4時間	
	三好・土成 ←→ 東京	1	約10時間	
東 京 方 面	三好・脇町 ←→ 神戸	1	約2時間40分	
	三好・脇町 ←→ 大阪	4	約3時間50分	
西 京 方 面	三好・脇町 ←→ 京都	1	約3時間40分	
	阿南(橋) ←→ 東京	2	約11時間	
川 島	阿南 ←→ 東京	1	約11時間	
	阿南 ←→ 大阪	7	約3時間40分	
中 国 ・ 四 国 方 面	松山・徳島 ←→ 名古屋	1	約9時間30分	
	徳島 ←→ 徳島川・牧方	2	約3時間20分	
徳 島	徳島 ←→ 高松	1 2	約1時間35分	
	徳島 ←→ 高知	4	約2時間50分	
松 山	徳島 ←→ 松山	7	約2時間30分	
	徳島 ←→ 岡山	3	約2時間30分	(瀬戸大橋)
徳 島	徳島 ←→ 広島	2	約3時間45分	(瀬戸大橋)
	合 計	1 5 5		

(注1) 県内K観光の高速バス運行が集計に入れば、阿南・徳島～神戸・大阪間で往復で11本、阿南・徳島～新宿・東京間で往復で4本、増加します。

(注2) 1990年当時徳島～東神戸間がフェリーでの所要時間が約3時間10分でした。



徳島と和歌山を結ぶフェリーボート  
(南海フェリー)

上の表で、大鳴門橋と明石海峡大橋を利用している高速バスはどれかな。高速バスの利用者はどんな目的で乗っているのかな。





## 【14】 徳島の郷土料理を知ろう

「郷土料理」の歴史や種類について調べ、また実際に調理して食べてみて、徳島の食文化の特色や多様性について理解しよう。



「そば米ぞうすい」は、そば米とねぎ、にんじん、大根、ちくわ、豆腐等を入れた、しょうゆ味の汁です。そば米ぞうすいの始まりは、祖谷地方と言われていますが、現在では、広く県内で食べられています。そばをつぶのまま調理するのは、徳島独特の調理方法です。



「そば米」は、そばの実を塩ゆでして、陰干しし、乾燥させて殻をとったものです。



「ぼうぜ(イボダイ)」は、スズキ目イボダイ科に分類される魚で、夏から秋にかけて旬とされています。



「ぼうぜの姿寿司」は、背開きにしたぼうぜを酢でしめたものに酢飯を詰め、木杵に並べて押し立てて作ります。7時間以上押し立てると、柔らかくなり、頭まで食べることが出来るようになります。徳島の秋祭りには、なくてはならない行事食の1つです。

## 徳島を代表する郷土料理

農林水産省では、2007(平成19)年に「全国各地に伝わる郷土料理のうち、農山漁村で脈々と受け継がれ、かつ『食べてみたい！食べさせたい！ふるさとの味』として国民的に支持されうる料理を郷土料理百選として選定」しました。その結果、徳島県からは、上の2つの料理が選ばれました。



## 所変われば・・・

郷土料理は、同じ料理であっても、調理に使う材料や名称が異なっている場合があります。あなたの地域や家庭で食べている郷土料理と比べてみましょう。

- 「ちらしずし」…節句やお祭りの時に作られるおすしのことです。
- 「雑煮」…「おせち料理」とともに、お正月の「行事食」として、現在も多くのご家庭で作られています。徳島の雑煮は、丸もち、さといも、にんじん、青菜(こまつな等)を入れた、いりこだしの白味噌仕立てが多いようですが、県内の地域や家庭によって、使われる具材や汁に使う調味料などは様々です。



主な材料  
ちくわ、ごぼう、こんにゃく、にんじん、油あげ 等

### 名称

◆徳島県内では、次のような名称でも呼ばれています。  
【五目ずし】【かきませ】【おすもじ】【ばらすし】  
【いのこずし】

### 材料

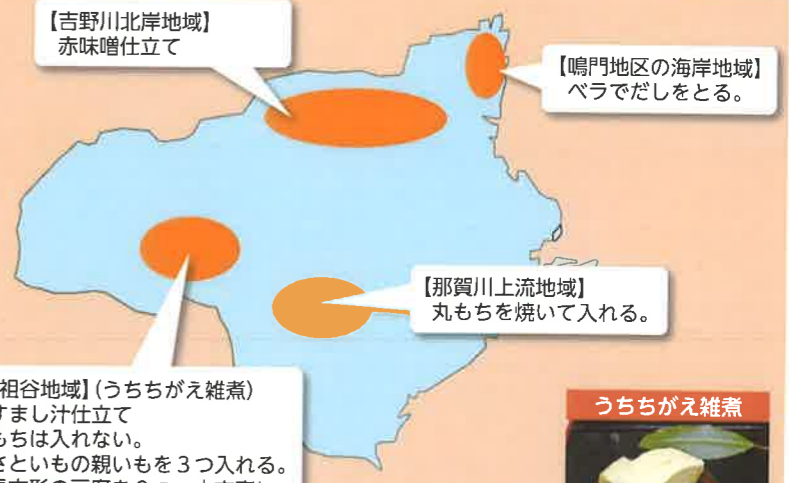
◆県内の地域によって、次のような材料も使われます。  
・金時豆  
・落花生(ピーナッツ)  
・ひじき



【もち】丸いもちを煮る  
【汁】いりこだし、白みそ仕立て

【具材】大根、さといも、にんじん、こまつな 等

### 地域によって異なる雑煮の呼び名



【吉野川北岸地域】赤味噌仕立て

【鳴門地区の海岸地域】ペラでだしをとる。

【那賀川上流地域】丸もちを焼いて入れる。

【東祖谷地域】(うちちがえ雑煮)  
・すまし汁仕立て  
・もちはいれない。  
・さといもの親いもを3つ入れる。  
・長方形の豆腐を2つ、十文字にうち重ねてのせる。

うちちがえ雑煮



参考:「日本の食生活全集36聞き書徳島の食事」[1990.10. (社)農山漁村文化協会]

## 徳島の郷土料理を調べてみよう！

- 「とくしまの郷土料理」(H24.3. 徳島県農林水産部ブランド戦略総局とくしまブランド戦略課)
- 中国四国農政局ホームページ・「伝統料理(徳島県)」
- 農林水産省選定「郷土料理百選」ホームページ
- 「日本の食生活全集36 聞き書徳島の食事」[1990.10. (社)農山漁村文化協会]
- 「阿波の郷土料理」[2011.3 (株)アワード]
- 「とくしま味の四季」[1983.1 徳島新聞社]

## 【15】地域の食材を使って「そば米汁」を作ろう

地域の食材や郷土料理について調べ、地域の食文化の良さについて気づくとともに、地域の食材を使って「そば米汁」を作しましょう。



そば米汁



10月～11月に咲く  
そばの花



そば米



**玄そば**  
結実、収穫したそばの実で、まだ黒っぽい殻(果皮)をかぶったままのそばの実。  
「玄」とは昔の言葉で「黒い色」という意味。

### 「そば米汁」の由来について知ろう

「そば米雑炊」「そば米汁」は、祖谷地方の郷土料理です。祖谷地方は、高い山に囲まれて、稲作には適さず、米が作れませんでした。そのため、冷涼な気候、雨が少なかったり水利が悪かったりする乾燥した土地でもよく育ち、痩せた土地でも容易に生育するそばが作られてきました。

そばは、種まきしてから2～3か月程度で収穫でき、地域により年2回ないし3回収穫できます。救荒作物※として5世紀頃から栽培されてきました。原産地は、中国南部と言われている。休耕田などを利用したそばの栽培が増えているので、国内の生産量は増加傾向ですが、消費量の80%は輸入品であり、その80%以上が中国からの物です。日本の主産地は、北海道で国産の約35%を収穫しています。

そば米とは、そばの実をゆで、殻をむき、乾燥させたものです。源平の合戦に敗れ、祖谷地方に逃げてきた平家の落人たちが、都をしのいで正月料理に作ったのが、「そば米雑炊」の始まりといわれています。昔は、野菜や山菜と一緒に煮て作られていました。そば米を、お米に見立てて雑炊としたのが「そば米雑炊」、汁の実として入れたのが「そば米汁」と呼ばれます。

※救荒作物 稲が凶作の時にも、生育して収穫しうる、気候不順に強い作物のこと。

### そば収穫の様子



急な斜面のそば畑  
草丈は、60～130cmくらい、  
茎が淡紅で、白色の花です。



よく実って収穫時期になりました。  
鎌で丁寧に刈り取ります。



斜面地なので背負子で運びます。



ハデに掛けて、乾燥させ、カラサオで実を落とします。

写真提供 つるぎ町農林課

## 野菜たっぷり「そば米汁」を作ろう

皆さんの地域でとれる野菜などの食材をひとつプラスして、野菜たっぷりの「そば米汁」を作ってみましょう。素材そのままの素朴な味わいがグッドです。

とり肉は「阿波尾鶏」を使うと、さらに風味が増します。



### 《材料と分量》4人分

- そば米……………1/2カップ
- とり肉……………100g
- ちくわ……………1本
- にんじん……………80g
- 干しいたけ……………2枚
- みつば……………1束
- だし汁……………4カップ (だしは、とりガラと昆布とかつお節でとる)
- 薄口しょう油……………大さじ2
- 塩……………少々
- 酒……………大さじ1

### 地域の食材をひとつプラスしよう

プラスする地域の食材を決めて、その分量や調理方法を確認しましょう。

### 《作り方》

- 1 そば米はよく洗い、水から柔らかくなるまでゆで、きれいに洗ってざるにあげ、水気をきる。
- 2 とり肉は皮をとり(皮はスープに用いる)、身は細かく切る。
- 3 にんじんは千切り、干しいたけはぬるま湯でもどし、もどした汁はスープに入れ、にんじんの長さと同じ千切りにする。ちくわは薄切りにする。
- 4 だし汁に、とり肉・にんじん・しいたけを加え、煮た後、そば米・ちくわ・調味料を加える。
- 5 長さ2～3cmに切ったみつばを散らし、器に盛る。

### 調理実習の計画を立てて、調理をしよう

材料の下準備、切り方、だしのとり方などを確認しながら、各自の分担を決めて、実習計画を立てて、調理実習をしましょう。(次時に、1時間で調理実習を行います。)

### チャレンジ

- ①地域の食材を使って「そば米汁」の調理をしましたが、他にも「汁もの」の実として入れられる地域の食材はないか考えてみましょう。
- ②昆布、かつお節、とりガラ、干しいたけから「汁もの」のだしをとりました。小学校では、煮干し(いりこ)も使いました。これらの中から、好みの材料でだしをとり、①の食材を使って「汁もの」を作ってみましょう。

## 【16】 徳島県の天然記念物を見に行こう

徳島県の「天然記念物」について調べ、それを守り、継承していくことの意味や意義について理解しよう。



徳島新聞  
(平成25年11月16日付け朝刊)



カモシカ(特別天然記念物)

### そもそも天然記念物とは

天然記念物は、学術上貴重でわが国の自然を記念するものとして指定された動物、植物、地質・鉱物です。

最近では、2014(平成26)年3月に、三好市の『大歩危』が新たに国の天然記念物として指定されました(県内では25番目)。

古くからの景勝地でもある大歩危ですが、特に、両岸に見られる露出した岩石は、日本列島の成り立ちを知る上で重要であり、船下りやラフティングを通して身近に観察することができます。

### 天然記念物の意義とは

私たちと自然との関わりは、過去から現在、そして未来に至るまで切っても切れないものです。天然記念物は、私たちに過去の歴史や、日本列島の多様な自然、そして自然を敬う日本人の心を教えてくれます。

### 天然記念物からわかること

天然記念物は過去の先輩たちの手で大切に守られてきた結果、今も目にすることができます。これからは私たちは未来の後輩のために守っていかなければならず、そのためには、いろいろな制限や不自由なこともあるかもしれません。

しかし、天然記念物は私たちと自然との関わりを教えてくれる良い教材です。守るだけでなく、親しみを持って『生きた教材』をいかしていくことが、これからの私たちに求められていることかもしれません。



船達のオンツツジ群落(吉野川市)

上の地図は、徳島県の国指定の天然記念物の一部を示したものです。写真を見ながら、下の( )を埋めてみましょう。

### 国指定天然記念物(全25件のうちより 抜粋)

#### 【動物】

- ①大浜海岸の( )およびその産卵地 海部郡美波町 昭和42年指定
- ②美郷の( )およびその発生地 吉野川市美郷全域 昭和45年指定

#### 【植物】

- ③加茂の( )※特別天然記念物 三好郡東みよし町 昭和31年指定
- ④乳保神社の( ) 板野郡上板町 昭和19年指定
- ⑤沢谷の( )発生地 那賀郡那賀町 昭和29年指定
- ⑥出羽島大池の( )自生地 海部郡牟岐町 昭和47年指定
- ⑦鈴が峯の( )発生地 海部郡海陽町 昭和54年指定

#### 【地質・鉱物】

- ⑧阿波の( ) 阿波市阿波町 昭和9年指定
- ⑨坂州( ) 那賀郡那賀町 平成23年指定
- ⑩穴喰浦の( ) 海部郡海陽町 昭和54年指定

特別天然記念物とは、天然記念物のうち、特に重要なものことです。このほかにも皆さんの身近には、県指定の天然記念物や市町村指定の天然記念物があります。



#### 答え

- ①ウミガメ ⑥シラタマモ
- ②ホタル ⑦ヤッコソウ
- ③大クス ⑧土柱
- ④イチヨウ ⑨不整合
- ⑤タキノコグイ ⑩化石遺痕

## 【17】 奇勝「阿波の土柱」

「阿波の土柱」について調べたり、観察したりして、土柱という珍しい地形ができた理由やその変化について理解しよう。



波濤嶽(昭和9年国指定天然記念物)



遊歩道から見た波濤嶽



波濤嶽(全景)

### 土柱について

土柱は、礫や砂からなる地層が風雨により侵食され柱状になった、世界的にも大変珍しい地形です。一般には柱の頂には礫がのり、その礫に保護された部分のみが侵食を免れて土柱ができたと考えられています。そのため、個々の土柱の頂には、礫がのっていることが多く見られます。

「阿波の土柱」とは、徳島県阿波市にある土柱のことで、1934(昭和9)年に国の天然記念物に指定されました。一般によく知られているのは、千帽子山の南東にある波濤嶽です。この他にも高歩頂山の南東にある橋嶽、扇子嶽、円山の南東にある灯籠嶽、不老嶽などがあります。

徳島県阿波市の「阿波の土柱」は、アメリカ合衆国・ロッキー山脈の土柱や、イタリア・チロル地方の土柱と並び、「世界三大土柱」のひとつとされています。

※礫一粒径2mm以上の岩石の破片のこと。



灯籠嶽



扇子嶽



不老嶽



橋嶽



ライトアップされた波濤嶽



阿波の土柱 地図(阿波市ホームページより)

### チャレンジ

①「阿波の土柱」を観察に行ってみよう。

(方法)

● 全体の様子を観察

- ・ 観察する場所のまわりの地形には、どのような特徴があるか見渡す。
- ・ 正面の展望台から、土柱の全容を観察する。
- ・ 礫層と泥層(シルト層)の様子を観察する。
- ・ 全体をスケッチする。(または写真をとる)

● くわしく観察

- ・ 地層の色、厚さ、傾き、粒の大きさや形、手でさわった感じなどを記録する。
- ・ 礫の形や大きさも観察する。

(観察に必要なもの)

● ルーペ、巻き尺、方位磁針、手袋、帽子、袋、地形図、スケッチ板、色鉛筆グラフ用紙、カメラなど

(交通)

- 徳島自動車道の阿波パーキングエリアから北へ、徒歩約7分
- 県道阿波土柱線(198号線)を北上し、徳島自動車道阿波パーキングエリアを過ぎて、初めての交差点を北へ。
- JR徳島線学駅からバス乗り換え、市場交通土柱行きで終点下車(1日2往復)

(注意)

- 危険な場所には近づかないようにしましょう。
- 観察には、大人と一緒にいきましょう。
- 阿波の土柱は天然記念物です。石を持ち帰ったり、ハンマーで石を割ったりしてはいけません。

②今回は、徳島県にある珍しい地形として「阿波の土柱」を紹介しましたが、皆さんの住んでいる地域にも特徴的な地形はないか、探してみましょう。



アメリカ・ユタ州グライスキャニオン国立公園にあるトールハンマー(土柱) (Luca Galuzzi-www.galuzzi.it)



イタリア・南チロル地方オーバーボーツェンの土柱(提供:岩谷 哲)

## 【18】 陶器(セラミックス)で豊かな生活

「大谷焼」の歴史と特徴について調べたり、自分たちでも制作してみて、陶器(セラミック)の特色や魅力について理解しよう。



大谷焼登り窯の内部



寝ろくろ



大谷焼

### 徳島の焼き物について知ろう! -大谷焼とは-

#### 大谷焼の起源

徳島を代表する焼物である大谷焼は、鳴門市大麻町においてつくられる、200年以上の伝統をもつ陶器です。大谷焼の起源は、江戸時代後期の1780(安永9)年に九州の豊後の国(現在の大分県)の焼き物職人・文右衛門が大谷村(大麻町大谷)において、蟹ヶ谷の赤土でつくったのが、大谷焼の起源と伝えられています。徳島藩(徳島県)は藍が特産であったので、藍染めの際に藍液を入れるための巨大な藍甕の需要で発展しました。

#### 大谷焼の特徴

焼き物に使われる土は、讃岐山脈に沿った土地から採掘されます。大谷の土は鉄分が多く、焼き上げるとざらりとした風合いとかすかに金属的な光沢を感じさせる表面の質感が、素朴な土の味わいを醸し出します。

#### 大谷焼独特の製法

一人が入れる藍甕のような大物陶器は、「寝ろくろ」という技法を用いて作られます。1人が横に寝てロクロを足で回し、もう1人が成形する技法は、大谷焼の独特の製法となっています。ロ

	陶器	磁器
原料	陶土という粘土	陶石が原料の磁土
焼成温度	1000度~1300度	1300度をこえる高温
透光性	光を通さない	光を通す
吸水性	有り	無し
響く音	軽く叩くとゴンという鈍い音	軽く叩くとキーンという鈍い音
代表的な焼き物	常滑焼 大谷焼 備前焼 信楽焼 越前焼 瀬戸焼 丹波焼	清水焼 有田焼 九谷焼 京焼 砥部焼

陶器と磁器の比較表



大谷焼



有田焼

クロの回し役と甕の成形役の2人の息がぴったりと合っていないとできない熟練の技です。

大麻町には、その昔に阿波藍を寝かせるための大甕が盛んに焼かれていたころの伝統が残っていて、身の丈ほどもある甕や睡蓮鉢の大物陶器の大きさとそれを焼く登り窯は、日本一と評されています。しかし、近隣住民への配慮などから登り窯を使用している窯元は一軒のみで、ほとんどがガス窯や電気窯を使用しています。

#### 現在の大谷焼について

2003(平成15)年9月、大谷焼が経済産業省から国の伝統的工芸品の指定ならびに徳島県の伝統的特産品の認定を受けました。このことは、200年の歴史を有する大谷焼の高い技術と芸術性が、認知された証といえます。近年では、湯飲みや茶碗などの身の回りの生活雑器から芸術作品まで幅広い分野の焼き物が製作されています。

#### 「大谷焼の製品」

- ◆ 生活雑器：カップ、湯呑、灰皿、土びんなど
- ◆ 茶器：茶碗、菓子鉢、水指、香合など
- ◆ 装飾品：飾り皿、掛額、各種置物、壁掛、壺など
- ◆ ガーデンファニチャー：腰かけ、テーブル、灯ろうなど
- ◆ 大物：水甕(最大級6石)、睡蓮鉢(最大級4.3尺)、傘立など
- ◆ 建築用陶器：飾煉瓦、化粧煉瓦、陶芸クラフト
- ◆ 花器：各種花器
- ◆ その他の陶器：植木鉢(大物、小物(素焼鉢など))、野花立

自分や家族が使うことを考えて、焼き物をデザインしてみよう。



## 【20】暮らしのなかに息づく伝統・文化

これまで「あわ文化」について学んできたことに基づいて、なぜ「あわ文化」が長く継承されてきたのか、理由を説明しよう。また、どうすれば「あわ文化」を未来に向けて継承できるか、具体的な方法を提案しよう。



三好市池田町三所神社の川崎獅子太鼓



徳島市阿波おどり会館の阿波おどり



本藍染め矢野工場での藍染体験

藍染めで製品化された日傘



### 過去からの文化の継承

私たちの徳島には、昔から語り引き継がれている様々な文化遺産があります。それは、阿波おどりや人形浄瑠璃などの著名なものに限らず、それぞれの町に根付いた伝統的な芸能や催しなども含まれます。

これらの文化が長く受け継がれてきた第1の理由は、それが地域の人々の生活と深く結びついてきたからです。地域の年中行事や地場産業、思い出の景観(原風景)として人々の生活に深く結びついているものほど、人々に愛され、継承されていきます。

第2の理由は、社会の変化に応じて性格を変えてきたからです。伝統的な催しも、規模を大きくしたり、国内外の観光客にみってもらうことで、地元を経済的な利益をもたらすことができます(観光化)。伝統的な特産品も、現代のライフスタイルに適応した商品に生まれ変わることで、新しい顧客をつかむことができます(商品化)。

博物館は、これらの文化を保管し展示することで、古くからの姿や新しい姿を伝える役割を果たしています。また、人々が地域の文化について知り、学ぶ場ともなっています。

### 未来への文化の創造

私たちは、徳島の伝統的な文化を受け継ぐ継承者であると同時に

#### 県内の博物館(一部)

- 徳島県立博物館
- 徳島県立文書館
- 徳島県立埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」
- 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
- 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
- 徳島市立徳島城博物館
- 徳島市立考古資料館
- 鳴門市賀川豊彦記念館

※上の博物館を、目的や役割別に分類してみよう。



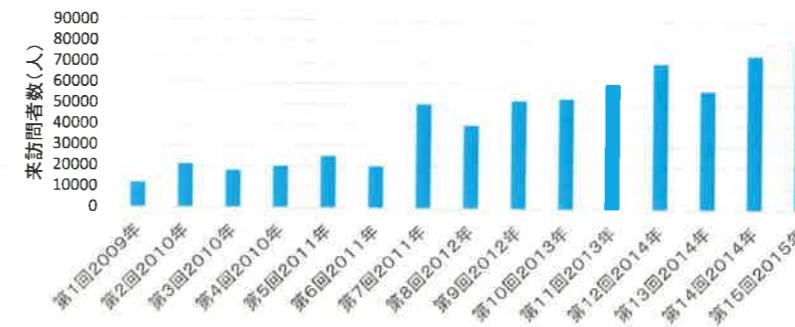
昭和南海地震津波の最高潮位標識



津波十訓(海陽町)



徳島県立城南高等学校野球部創立百周年記念碑



マチ★アソビの来訪者数



神山アーティスト・イン・レジデンス

に、新しい文化を生み出し発信していく創造者でもあります。

皆さんの中には、小学校の卒業時に記念植樹をしたり、記念碑を建てたり、文集をつくった人がいるでしょう。時間とともに忘れられていく貴重な記憶も、文字(写真や音声)などの記録に残しておくことで、それを後世に受け渡すことができます。県南の各地に残されている地震・津波碑は、その例です。

私たちが創っている文化は、カタチあるものに限られません。何かを楽しんだり大事にしたりするライフスタイルも含まれます。近年、徳島市の新町川や眉山周辺で定期的に行われている「マチ★アソビ」は、地域の自然を活かしつつ、アニメやコスプレを楽しもうとする徳島発のエンターテインメントです(アニメは、日本を代表する文化として世界的に注目されています)。この特色あるイベントを続けるために、地元の企業やNPO、自治体は様々な支援をしています。

このように徳島では、グローバルな社会変化の影響を受けつつも、ローカル色豊かな、地域に根差した文化が創造されています。

### チャレンジ

あなたの「お勧め・あわ文化」は何ですか。  
あなたの「お勧め・あわ文化」が、30年後にも生き残るための作戦を立ててみよう。

私たちの町に残されている碑を探して、由来やメッセージの内容を調べてみたいな。



#### マチ★アソビ vol.15 2015年10月開催の運営

- 主催 アニメまつり実行委員会、NPO法人マチ★アソビ
- 協力 徳島市観光協会
- 後援 文化庁、徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局、エフエム徳島、エフエムびざん、ケーブルテレビ徳島

※これらの組織はどのような思いで協力・後援しているのだろう。予想しよう。

## あわ文化テキストブック

平成29年3月発行

### 編集・発行

#### 「あわ文化テキストブック」編集委員会

委員長	高橋 啓	元鳴門教育大学長
副委員長	福家 清司	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター理事長
委員	梅津 正美	鳴門教育大学副学長
委員	草原 和博	広島大学教授
委員	町田 哲	鳴門教育大学准教授
委員	大島 千文	佐那河内小・中学校長
委員	井上 隆	松茂町教育委員会社会教育指導員

徳島県教育委員会教育文化課

徳島県立総合教育センター

### 出版・印刷

三星堂印刷所

徳島県鳴門市撫養町黒崎字松島237 TEL.088-685-3343 FAX.088-685-4575